

第460回鉄鋼流通問題懇談会

2023年2月3日（金）14：30

茅場町「鉄鋼会館701」

議 題

1. 配布資料説明（全鉄連）
2. 全鉄連情勢報告
 - (1) 地区の状況
 - 東京、大阪（鉄流懇・提出資料参照）
 - 新潟、石川、岡山地区概況報告
 - (2) その他地区の概況
 - 鉄流懇1月例会で発表の各地区業況アンケート結果
 - (3) 総括：阪上全鉄連会長
3. 意見交換
4. 経済産業省挨拶
5. 鉄流懇会長挨拶
6. その他

○次回以降会議予定

2023年4月26日（水）14：30～

於：茅場町「鉄鋼会館4階・日本鉄鋼連盟第1会議室」

| 発表項目 | 発表者 | 鋼管 | 薄板 | 厚板 | 棒鋼・形鋼 |
|--------------|-----|---|--|--|---|
| | | メタルワン | 住友商事グローバルメタルズ | 阪和興業 | 日鉄物産 |
| 1. 需給動向（景況感） | | 大型物件向けは8月～9月が山との声もあったが、引合い数に減少傾向はなく、引き続き堅調に推移している。一方で、中小建築案件向け荷動きは引き続き低調に推移。浦安鉄鋼団地全体でみて、10月以降の出荷量は前年比▲10～15%となっている。工期の定まった物件（公共施設など）が動き始めているとの情報あり、3月以降若干回復する見込みはあるものの、足許の出荷量は依然低調に推移している。 価格動向につき、溶協メーカーは各社概ね1月現在店売り向け+80円/kgの値上げを実行済。再販価格に関し、浦安鉄鋼団地内では、9月1日時点で累計+90円/kgの追加値上げを執行している特約店もあるが、概ね各社累計+80～85円/kgの値上げを執行済。一方で、安価に販売している特約店も散見されるとのコメントもある。 | 2022年11月末薄板三品在庫（確報値）は、前月比2.4%減の428万9千トンとなり、3ヶ月連続で減少した。在庫内訳はメーカー在庫が前月比3万4千トン減の185万4千トン、問屋在庫が3万7千トン減の92万6千トン、コイルセンター在庫が3万4千トン減の150万9千トンとなった。在庫率は2.96ヶ月となり前月比0.12ポイント増加した。 メーカーの減産継続によって、メーカー在庫は2ヶ月連続で180万トン台となり、12月～2月は稼働日数減の影響はあるものの、期末に向けて在庫は減少してゆくとみられる。製造業では引き続き半導体等の調達リスクにより、不安定な生産が続くものの、自動車生産の緩やかな回復に伴い、コイルセンターの日当り出荷は回復している。建築では大型物件は堅調だが、薄板店売市場に影響する中小物件は、資材高騰や人手不足によってコロナ前の水準には戻らず、回復が待たれる。 | 月末の全国厚中板在庫は464千トンで前月比1,717トン減。出荷量が受け入れ量を上回り、2ヶ月連続の在庫減となった。在庫率は全国ベースでは前月比5.4ポイント下がり278.5%となった。在庫率減少傾向にあるが、適正在庫率と言われる200%を依然上回っている状況。 需要に関して、建機分野は昨年度に引き続き、エネルギー関連、比較的好調ではあるが、アメリカ住宅向け建機では需要がピークアウトし、不安要素は多少あり。建築は中小案件が足元鈍く、大型再開案件待ちの状況。全体的には堅調。造船も落ち込みなく推移。産業機械関連は部品調達難もあり、やや荷動き悪い。一方で供給面では各高戸メーカーから出荷される高値母材が納入。製品価格への転嫁急務となっているが、現物市況が中々切り上がらない状況が続く。 | 【棒鋼】商況は年末からスクラップ市況動向を睨みながら様子を見る展開となっており、年明けも静かな出だしである。1月の関東鉄源協入札結果が先月よりも上伸したが、今のところゼネコンを始めとする買手の反応は鈍い。一方メーカーの販売姿勢にも変化なく、市況は横這い推移。今後は中国国慶節後の経済動向の影響を注視する流れとなる。 【形鋼】流通指標の1つである1月のときわ会発表では、稼働日影響はあるものの、出荷数量は2か月連続で対前月比減、8ヶ月ぶりに在庫量も19万t台へ増加。価格は据え置き継続。加工に関しては忙しい状況が続いているが、市況に影響を与える中小案件の動きは芳しくなく、荷動きは低調な状況継続、市況への悪影響も徐々に始めていると感じる。 |
| 2. 需要産業動向 | | 【建築・土木】 22年11月の新設住宅着工戸数は、前年同月比▲1.4%の7万3414戸。持家は前年比▲15.1%と12か月連続の減少、貸家は同+11.4%で21か月連続増加、分譲住宅は同▲0.8%と4か月ぶりの減少となった。 【自動車】 トヨタ自動車など国内乗用車メーカー8社における、22年11月単月の世界生産は前年同月比▲4.3%の210万9千台。国内生産は前年同月比+2%増の72万7千台、国外販売は▲3.6%の189万6千台となった。 【建機】 11月の建設機械出荷金額は、内需は前年同2.4%増加、外需は49.6%増加。総合計では31.2%増加の3,199億円となり、25か月連続の増加となった。 【造船】 22年11月の起工量は前年同月比▲38.3%の63万GTと2か月連続で減少。12月の輸出船契約量は前年同月比+130%の148万GTとなった。 | 2022年12月の自動車国内販売は、31万4千台（前年同月比2.1%増）と、4ヶ月連続のプラス。乗用車が25万6千台（同1.1%増）、トラックが57千台（同6.8%増）となった。 12月の民生用電気機器の国内出荷金額は、2,295億円（同99.2%）と6か月ぶりのマイナスとなった。ルームエアコンは6か月連続のプラス、冷蔵庫・洗濯機は2ヶ月連続のマイナスとなった。原材料・輸送費の高騰による製品単価の上昇もあり、2022年層では前年比102%と2年ぶりのプラスとなり、1991年に次ぐ過去2番目の出荷金額となった。 国土交通省より発表された、11月の新設住宅着工戸数は7.2万戸（前年同月比1.4%減）と、2ヶ月連続の減少。貸家は増加したが、持家及び分譲住宅が減少した。また、季節調整済年率換算値では前月比3.7%の減少となった。 | 造船の12月末輸出船手持工事量は2,173万GTで、11月比6%増加となった。2022年度4-12月分の輸出船受注量は、前年同期比30%減883万GTと26万GT減少。2022年度4-12月分の輸出通関量も、前年同月比14%減591万GTと92万GT減少。これを受けて2022年12月末の輸出船手持工事量は前年同期比14%増の2,173万GTと303万GT増加。 建設機械の11月の出荷金額は内需が972億（前年同月比2.4%増、外需が92,226億（同49.6%増）、合計3,199億円で前年同月比31.2%増となった。総合計では28ヶ月連続で増加。大手建機メーカーの生産計画は前年比+20～30%の生産台数を見込むもののエンジンなど部品調達次第で一部調整が入る。産業機械の10月受注金額は内需が92,205億（前年同月比18.8%減）、外需が1,086億（同2.2%増）、合計3,290億円で前年同月比12.9%減。機種別では鉱山機械、プラスチック加工機械、ポンプ、圧縮機、変速機が堅調。建築に関して、鉄骨数量は2021年度462万トン。前年度比14%増。2022年度は前年度並みの見通し。中小物件は盛り上がり欠けるが、再開発、物流倉庫等の大型案件は堅調 | 【棒鋼】ゼネコンの現場稼働は堅調に推移しており、一部では鉄筋工を始めとする労務不足の話が聞かれる。店舗、工場、倉庫などの着工統計が4-12月で前年比を上回っていることがそれを裏付ける。一方明細発注状況は、棒鋼市況の変動により波はあるものの、こちらも堅調に推移しているものとみられる。 【形鋼】2022年11月の建築着工統計に基づく換算鉄骨量は35.4万tと対前年度比ほぼ横ばい、大規模S造案件の需要は底堅いが、建設スケジュールの遅れや、資機材高騰影響による中小案件の計画見直しが散見され始めている。今後の需要動向については、引き続き、注視する必要があると思われる。 |
| 3. 輸出入動向 | | 2022年11月度鋼管輸出量 縦目無鋼管：21,859トン（前月比+31.9%） 溶接鋼管：17,194トン（前月比▲44.2%） 2022年11月度鋼管輸入量 縦目無鋼管：1,376トン（前月比▲26.7%） 溶接鋼管：11,406トン（前月比+43.4%） | 11月の薄板三品輸入量は26万9千トン（前年同月比5.0%増）であった。主要品種別では、熱延鋼板が11万9千トン（同17.0%増）、冷延鋼板が7万トン（同3.9%減）、亜鉛めっき鋼板が8万トン（同1.9%減）となっている。11月末の輸入岸壁在庫は17万トンで、前月比で3千トン減となった。近海市況に比べ、日本国内の市況は大きく下がっており、韓国・台湾・中国ミルは自国内需の弱さもあって対日向けで数値回復の方針が続く。直近で海外市況が底打ちも、日本市場の価格相場の未だ魅力であり、しばらくは30万トン程度の数値は続くと思われる。 | 11月の輸入通関実績は前月比2千トン減の33千トン。中国からは6千トン、韓国が25千トン（前月比4千トン減）、台湾が2千トン（前月比微減）となった。11月の輸出船積実績279千トン（前月比17千トン増）。中国向けで9千トン増、韓国向けは1千トン増、東南アジアでは7千トン増、欧州向けは減となった。 | 直近のデータ（22年11月実績）から見る輸出入状況 輸出 形鋼 58.8千MT（前月 42.2千 前年同月 41千） 棒鋼 130千MT（前月 122千 前年同月 117千） 輸入 形鋼 7.6千MT（前月 9.6千 前年同月 0.7千） 棒鋼 9.8千MT（前月 8.6千 前年同月 9.2千） 海外市況は全般的に低調なるも、輸出は年対比増加傾向を示している。世帯輸入は対比顕著な変化は生じていない。 |
| 4. 海外市場動向 | | 原油価格は続落。12月平均WTIは76.4\$/バレルとなり、3ヶ月前（9月平均84.3\$/バレル）に比して約9%下回った。一方、米国リグカウント数は微増（12月最終週：779、9月最終週：765）。依然として油井管の需給タイト環境が続いており、高値圏で取引されている。 | 世界鉄鋼協会がまとめた世界64カ国・地域の11月の粗鋼生産量は、前年同月比2.6%減少の1億3,910万トンと2ヶ月連続の減少であった。中国は、7,454万トン（同7.3%増）と4ヶ月連続の増加も、2ヶ月連続で7千万トン台にとどまる。1-11月累計では同1.4%減となった。中国では政府の経済支援策により一部製造業やインフラ投資が増加基調となるも、不動産投資の低迷は長期化の見通し。春節明け以降の実需回復度合いと、鋼材価格の動向を注視する。 | 中国の22年度GDP目標5.5%に届かない、+3%で目標を大幅に下回った。中国国内内需は弱気。一方、足元は旧正月後の需要期に期待し、市況はやや回復傾向にあり。韓国は造船会社受注好調だが、能力上がらず生産減少。韓国メーカー3社の22年1-11月の販売量は765万トンで前年同期比0.9%減、国内販売量は593万2千トンで前年同期比0.9%減少、輸出量は171万トンで前年同期比0.9%減少。 | 中国鋼材市場は政府がゼロコロナ政策を行った以降、需要は著しく低迷。22年下半期以降（6月～）、市況は顕著な下落傾向が継続。 アジア市場は中国或るロシア・インドからの安値提示に影響を被り低調な状態が継続。更に国内最大の鋼材消費国であるインドには、インフレ懸念から市場への資金供給を政府が厳密に制限し、大規模な大規模建設案件に着手できないという事態が出来るなどもあった。 中国のゼロコロナ方針転換を機に12月頃から中国・アジア市場とも反転の兆しを示しており、春節以降の市況上昇の期待感が強まつつある。 |

鉄鋼流通問題懇談会（2023年1月）

| 発表者 発表項目 | メーカー JFEスチール |
|--------------|--|
| 1. 需給動向（景況感） | <p>（国内）・12月の日銀短観では企業の景況感を表す業況判断指数（DI）が大企業・製造業で前回（9月）調査比▲1の+7と、4期連続の悪化。供給制約が徐々に改善している自動車や価格転嫁が進む食品や金属製品などは改善も、世界経済の減速による市況の悪化もあり、石油等の素材業種を中心に悪化し、全体を押し下げた。先行きについては+6と1ポイントの悪化。海外経済の減速を背景に輸出産業は素材業種を中心に景況感が上向かない状況が継続。一方で、22年度設備投資計画は大企業では前年度比+21.5%。国内景気や企業業績を背景に、高水準を維持している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家計部門について、11月小売業販売額は前年同月比+2.6%と9ヶ月連続の上昇。値上げ影響等もあり、上昇が継続。 ・製造部門では10月四輪車生産は前年同月比+34.6%と3か月連続の増加、10月の機械受注は▲1.0%と2か月振りの増。 ・建築部門では11月の全建築物建築着工床面積は957万㎡（前年同月比▲5.5%）と3か月連続の減少となった。 <p>（海外）・コロナ禍からの回復基調は継続も、ウクライナ情勢の長期化や物価高（インフレ）及びそれに伴う利上げ等の影響を受け、先行き不透明感が払拭されない状況が継続。一方、中国ではゼロコロナ政策が解除され、混乱はありながらも正常化に向かうことが期待される。</p> <p>米国：インフレと利上げ影響など、依然リスクはあるものの、10-12月のGDP速報値では2四半期連続でプラス成長。</p> <p>欧州：ロシア・ウクライナ影響によるエネルギー供給及び価格高騰が大きな課題。先行き不透明感残存。</p> <p>中国：ゼロコロナ政策解除や不動産部門への支援策も見られ、未だ不透明感はあるものの、正常化に向かうことが期待される。</p> <p>ASEAN：海外減速による輸出減は不可避であるが、観光業の回復や資源高の恩恵もあり、2022年は巡航速度の成長を維持。</p> <p><国内鉄鋼需給></p> <p>（生産）・22年12月の粗鋼生産は690万tと前年同月比で12ヶ月連続の減少。暦年では8,923万tと2年振りの9,000万t割れ。</p> <p>（出荷）・12月の普通鋼国内向け出荷は296万トンと11ヶ月連続の減少。</p> <p>（在庫）・12月末の普通鋼鋼材国内向け在庫は562万トン3ヶ月連続の減少。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月末の薄板3品在庫は421万トン（前年同月▲8万トン）季節パターンからは小幅な増加に留まるが、依然高位。 ・12月末の厚板シャー在庫は44万トン4か月連続の減少。 |
| 2. 需要産業動向 | <p>〔建築〕・11月の新設住宅着工戸数は7.2万戸（前年同月比▲1.4%）で2ヶ月連続の減少。。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非住宅着工床面積は351万㎡（同▲6.0%）で3か月連続の減少。製造業、小売業等で減少。 <p>〔自動車〕・12月の国内販売（輸入車除く）は34.4万台（前年同月比+2.1%）。4か月連続の増加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月の完成車輸出は37.2万台（同+8.7%）で4か月連続の増加。 ・10月の四輪生産（速報）は69.3万台（同+34.6%）で3ヶ月連続の増加。 <p>〔造船〕・12月の新造船受注量は148万GT。手持工事量は2,173万GTと2千万台を維持。</p> |
| 3. 輸出入動向 | <p>〔輸出〕・12月の全鉄鋼輸出は268万トン（前年同月比▲5%）で6ヶ月連続の減少。中国、台湾向けで減少。</p> <p>〔輸入〕・12月の鋼材輸入（普通鋼・ステン鋼・その他合金鋼計）は37万トン（前年同月比+3.2%）で2か月ぶりの増加。</p> |
| 4. 海外市場動向 | <ul style="list-style-type: none"> ・11月の世界粗鋼生産は1億3,910万トン（前年同月比▲3%）、2ヶ月連続の減。 ・12月の中国粗鋼生産は7,789万トン（同▲10%）。暦年では、10.1億t（前年比▲0.1%） ・12月の中国鋼材輸出は540万トン（同+7%）。粗鋼抑制の中、輸出は依然高位。内需停滞が確認出来る。 ・中国市中在庫は、1月27日時点で1,341万t。例年通り、春節時期の在庫積み局面。 |